



2015～16 年度
国際ロータリー会長
K. R. ラビンドラ

Weekly Report Niigata



世界へのプレゼントになろう

2015～16 年度 国際ロータリーのテーマ



2015～16 年度
新潟ロータリークラブ会長
竹石 松次

新潟 RC11 月第 1 例会 (2015.11.10) No.3109

- (1) 「君が代」 斉唱
ロータリーソング「奉仕の理想」 斉唱
- (2) 竹石 松次 会長挨拶

土田麦僊

明治二十年 (1,887) ～昭和十一年 (1936)

佐渡市 (旧佐渡郡新穂村) 新穂井内で生まれた。次男の金二少年は、早くから絵描きになる夢を持っていたが、父の反対に会い、尋常小学校を卒業すると隣村の薬師寺に預けられた。寺の小僧をしながらその機会を狙っていた。そのころ京都の法衣商の峯芳吉の導きもあって、明治三十三年に佐渡の和尚が大阪の勧業博覧会に行くことになり同行、京都で智山派総本山の智積院に行き得度するということになった。いよいよ剃髪という段になった時に寺から脱走する手段に出た。

法衣商のつてから六波羅蜜寺の方丈・竜弁の計らいで絵の世界への道が開かれることとなった。

最初は、円山四条派の鈴木松年、ここは上村松園がでたところである。半年後には竹内栖鳳の塾の竹杖塾にはいる。その頃、明治三十四年竹内栖鳳は欧州から帰朝し京都画壇で活躍していた。欧州リアリズムに立脚する新しい写実主義を取り入れた絵画方式が注目され麦僊もこのような画風に刺激を受けたが、困窮の中であって絵を描ける情熱に満ち溢れていた。

明治三十八年から美術協会主催の「新古美術展」、「文展」に出品、注目を集めた。日本美術協会の守旧派が、進歩的な画風に異を唱え麦僊の画風は退けられたことから明治四十二年以降、京都における先駆的な美術運動の先頭に立ち、大正七年、国画創世協会を誕生させた。

京都に本拠地を築いた麦僊は、祇園の情緒と、芸妓の華やかな世界を描き、舞踊、芸妓世界の芸術に執心する。

画法も、自然主義的なものに対し、大正期に入って、新しい官能的な手法に新境地を開いた。「髪」「島の女」「海女」「大原女」「三人の舞妓」等の作品を世に出し注目された。

大正十四年、念願の欧州旅行に出発、二年にわたる旅行で、外から伝統的な日本画の在り方の研究に没頭したことで、東洋の真の心を感じとったと言われ、その代表作が「大原女」である。

知人の画家、梅原竜三郎はこの絵に対し、

「君の絶えざる努力と探究心は、人に先んじて西洋画の長所にも目を移した。其処からは写実の美を深く知り、新鮮な装飾的な感覚を成長させた。しかも君の賢明は決して東洋画の伝統を踏み外すことがなかった」と絶賛している。

やがて麦僊は、京都画壇を代表する竹内栖鳳と東京画壇を代表する横山大観との調停にあたるなど日本画壇の再興に尽力するが、病との闘いに余儀なくされ京都病院で五十歳の若さで死亡した。

故郷の佐渡に対しては愛郷心も強く、佐渡には千代子夫人から下絵の草稿やデッサンが数多く寄贈されており、佐渡博物館の貴重な資料となっている。

佐渡を発って京都に学んだ土田麦僊は、伝統的な日本画の世界を終生の仕事として日本画壇に重きをなしたが、日本画の画法をヨーロッパの自然主義画法から学ぶなどスケールの大きさにおいて近代日本画壇の重鎮として今日でも高く評価されている。

土田麦僊は

「自分は舞妓を描くからと言って、決して享楽的な態度から描いてはいない。自然は無限に美しいけれども、自分の心は、なお自然以上の美に憧れている。それがキラキラ輝くものであったり、又焰のように燃え上がる感じであったりする。この内に憧れている美の感じは、ただ舞妓という対象をかりたに過ぎない。舞妓がこの自分の心に輝く美の憧れを託するには最も都合良き対象であったが為に。」

と言っている。

平成二十一年九月、新潟県立近代美術館で「土田麦僊—近代日本画の理想を求めて—」が開催され、代表作「海女」、「芥子」、「大原女」「舞妓」が出品されたほか、「三人の舞妓」では、新潟放送、知足美術館、佐渡博物館が所蔵する、下絵や素描も出品された。髪、顔の輪郭、目線、指先の表現など、麦僊が徹底的に拘った様子、作家の心意気が伺われた。

郷土が生んだもう一人の画家、小林古径と並び称される偉人である。

(3) ビジター紹介

・松平 實胤君(愛知 大山RC)

(4) 米山奨学生 朴 治国さん挨拶・奨学金贈呈

(5) 100%出席バッチの贈呈

安藤 栄寿君 1年 小林 敬直君 24年

(6) 誕生日お祝い贈呈(10名)

(7) 結婚記念日お祝いの紹介(14名)

(8) 新会員の紹介



(株)ユアテック新潟支社
取締役支社長 中山 哲克君
ご紹介 八島 進君
所属委員会 職業奉仕委員

・村松 敦君 結婚記念日のお花有難うございます。お花をいただくまで結婚記念日であることを忘れていました。冷や汗をかきましたがニコニコします。

・樋熊 紀雄君 11月2日 47回目の結婚記念日にお花をいただき有難うございました。47年前と今後について妻と語り合いました。

・坂本 務君 結婚記念日にきれいなお花を送っていただき有難うございました。妻も、とても喜んでいました。

・高橋 秀松君 結婚記念日のお花有難うございました。

・登坂 直美君 結婚記念日のお花有難うございました。30数年前を思い出しました。

・新田 幸壽君 11月は小生の誕生日。本日、祝のワインを頂けることを先取りしてニコニコです。

(13) 表彰

・五十嵐幸雄君へ 米山功労者第2回マルチプル感謝状贈呈

・得永哲史君へ米山功労者第3回マルチプル感謝状贈呈

・徳山 啓聖君へ米山功労者第20回メジャードナー感謝状と、ピンバッチ贈呈

・樋熊 紀雄君へメジャードナー記念品贈呈

(14) 幹事報告(吉田 和弘幹事)

・例会終了後、第二回指名委員会を5階「弥彦の間」で開催致します。

(15) ロータリー財団月間に因むお話し

織戸 潔君 財団委員長

(16) 11月10日例会の出席率 76.04%

会員数98名(出席免除会員 8名)

出席者73名(出席免除会員6名を含む)

(2週間前メーク後 86.96%)

11月24日の例会予定

卓話「ミャンマーの医療支援15年」

新潟大学名誉教授、新潟医療センター部長
内藤 眞 氏

新潟ロータリークラブホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>

この度、伝統ある新潟ロータリークラブに入会させて戴きまして誠にありがとうございます。会社に入社して36年目で初めての新潟勤務となりました。実は私は、新潟で生まれ高校卒業まで今の新潟市北区松浜に住んでおりました。39年の月日を経て懐かしの生まれ故郷に勤務することになり、公私ともに強い期待感と喜びを感じております。前任地では、盛岡ロータリーに3年間所属しておりました。引き続き、新潟ロータリーの会員として諸先輩の皆様方からご指導願いながら活動させていただきたいと存じます。いろいろとお世話になります。よろしくお願い申し上げます。

(9) 委員会報告

・秋山インターアクト委員より12月23日クリスマス年末年始献血呼びかけ協賛のお願い

(10) 同好会報告

・料理研究会のお知らせ

12月18日(金)18時より

テーマ:「チキン南蛮」

参加費:3,000円 *今回はビールつきで!

(11) 各種ご寄付の発表

ロータリー財団寄付発表(織戸 潔委員長)

織戸 潔君 若槻 良宏君

米山奨学会寄付発表(若杉 武副委員長)

徳山 啓聖君 岡村 健吉君

青少年育成基金寄付発表(小林 悟委員長)

樋熊 紀雄君

(12) ニコニコボックス紹介

・八島 進君 新会員の中山さんを歓迎してニコニコします。今後、公私に亘って新潟の生活を大いに楽しまれ、特に古町の経済活性化にご貢献頂きます様ご祈念いたします。

・小田 等君 ユアテック 中山さんの入会を祝してニコニコします。

11月10日 理事会報告 出席者11名

- 1 平山元会員からの依頼によるスペシャルオリンピック協力依頼について
平山元会員より例会において説明をしたいとの依頼がある。そのほか、資金や他クラブへの依頼の有無など、具体的な依頼事項を確認し、12月の理事会で対応を決定する。
- 2 10月24日 7RC野球大会参加・応援へのメーキャップ対応について＝メーキャップ扱いとする
- 3 ライラ研修参加報告と次年度研修について
2015年10月24日・25日に行われた新潟中央RC主催の研修会に、地区委員の吉田、ライラ委員長の石川さん、村松さん、海津さんで参加。
次年度は新潟RCがホストクラブとして開催。2月までに地区へ日程などを報告する。
- 4 菊池正緒さんの退会届＝承認。
- 5 浪江ロータリークラブ訪問の件
11月19日に小田委員長らが事前視察。当日は7時30分にイタリア軒出発。
参加者はメーキャップ扱いとする。
- 6 月見例会収支報告
石本理事から説明。原案の通り承認。
今後、夜例会の収支は支払い後、理事会に報告する。
- 7 11月のプログラム＝承認
 - 11月10日 財団月間に因むお話
財団委員長 織戸 潔 君
 - 11月17日 会員スピーチ
(株)新潟博報堂社長
代表取締役社長 山田 眞 君
 - 11月24日 卓話
「ミャンマーの医療支援15年」
新潟大学名誉教授、新潟医療センター部長
内藤 眞先生
- 8 その他
 - ・11月17日はポリオプラスのためのミリオンダラー実施。
 - ・細則検討委員会より
細則の変更は必要ないが、入退会の手続きをわかりやすくする、会計のあり方は運用規定を定めることで検討中である。